

New Horizon 第5回 Lessons

Lesson 5-1: be 動詞の肯定文② (he / she / it / this / that)

ここで学ぶのは、主語が he / she / it / this / that (または、これらの代名詞に言い換えることができる名詞) の時の「be 動詞の肯定文」についてです。作り方は、簡単。なぜなら、主語が I / you / we / they の時とほとんど同じだからです！唯一の違いは、be 動詞に is が使われるという点です (he / she / it / that の場合、主語と be 動詞をくっつけて he's / she's / it's / that's とすることも可)。

【be 動詞の肯定文②：基本の形】

主語 + is + ○○.

(意味：「主語は○○です」)

<○○の部分には「形容詞」「名詞」「形容詞+名詞」などが入る>

- <例> He is (He's) Taichi. (彼はタイチです)
She is (She's) a good student. (彼女は良い学生です)
This is my room. (こちらが私の部屋です)
Everyone is tired. (みんな疲れています)

【ポイント！】

1. it / this / that の使い分け

使い分けは、基本的に「それ = it / that」「これ・こちら = this」「あれ・あちら = that」となります。「それ」という意味の it / that の使い分けが気になりますよね？実は、it / this / that は、「it = 人称代名詞」「this / that = 指示代名詞」と分けることができます。

<人称代名詞>

基本的に、もうすでに何について話しているか分かる場合に使われる代名詞で、前の文に登場した名詞の繰り返しを避けるために使われます。ちなみに I / you / we / he / she / they も人称代名詞です。

<指示代名詞>

これ・それらのように「人・物・事」を指し示す時に使われる代名詞（「すでに話題にでた“それ”なら it、「あなたが手にしている“それ”なら that が使われる）。

2. everyone / every student といった every ~ は、単数形

「みんな」と主に訳される everyone や、「全生徒」と訳される every student など、every ~ の形は、複数形のように思えて実は単数形になります。そのため、be 動詞は is が使われます。

<例> Everybody is tall. (みんな背が高いです)

3. 形容詞としても使える **this / that**

「これ / それ」という意味の **this / that** ですが、「この / その」という意味の形容詞としても使うことができます。

<例> **This bag** is big. (このカバンは大きいです)

I like **that restaurant**. (私はあのレストランが好きです)

Lesson 5-2: be 動詞の否定文② (he / she / it / this / that)

be 動詞が is の時の否定文は、他の be 動詞の文と同様、is の後に not を足してあげれば完成となります (is not を isn't と短縮させることも可。また、he's not / she's not と he / she / it / that と be 動詞を短縮させ、not を足す形も可)。

【is の否定文：基本的な形】

主語 + **is not (isn't)** + ○○.

「主語は○○ではありません」

- <例> 彼女は先生ではありません。 → She **is not (isn't)** a teacher.
ケン、アメリカ出身ではありません。 → Ken **is not (isn't)** from America.
これは、私の車ではありません。 → This **is not (isn't)** my car.
あの学校は大きくないです。 → That school **is not (isn't)** big.

【is の否定文の作り方】

ステップ 1: is の「肯定文」を作る。

ステップ 2: is の後に **not** を足す。(isn't とすることも可)

<例 1 : 彼女は先生ではありません>

ステップ 1 : is の肯定文を作る。 → 彼女は先生です。

_____ She is a teacher. _____

ステップ 2 : is の後に **not** を足す。(isn't とすることも可)

_____ She is **not (isn't)** a teacher. _____ (She's not a teacher. も可)

<例 2 : ケンは、アメリカ出身ではありません>

ステップ 1 : is の肯定文を作る。 → ケンはアメリカ出身です。

_____ Ken is from America. _____

ステップ 2 : is の後に **not** を足す。(isn't とすることも可)

_____ Ken is **not (isn't)** from America. _____

Lesson 5-3: be 動詞の疑問文② (he / she / it / this / that)

そして、is の疑問文の作り方は、他の be 動詞の疑問文の作り方と同じ。肯定文の be 動詞を文頭に持ってくれば完成となるからです。

【is の疑問文：基本的な形】

Is + 主語 + ~ ?

「主語は～ですか」

<例> 彼は先生ですか。 → Is he a teacher?
これはあなたの机ですか。 → Is this your desk?

【is の疑問文の作り方】

ステップ 1 : is の「肯定文」を作る。

ステップ 2 : is を文頭に持ってきて、最後を ? に変える。

<例 1: 彼は先生ですか>

ステップ 1 : is の肯定文を作る。 → 彼は先生ですか。

He is a teacher.

ステップ 2 : is を文頭に持ってきて、最後を ? に変える。

Is he a teacher?

<例 2: これはあなたの机ですか>

ステップ 1 : is の肯定文を作る。 → これはあなたの机です。

This is your desk.

ステップ 2 : is を文頭に持ってきて、最後を ? に変える。

Is this your desk?

【be 動詞の疑問文：答え方】

答え方は、基本的に Yes / No の 2 種類。（注意：ここでいう代名詞とは、he / she / it）

Yes, 代名詞 is .

代名詞と is を短縮させることも可能。

<例> No, he's not. など

No, 代名詞 is not .

is と not を短縮させた形を使うのが一般的 (No, he isn't. など)。

am not の短縮形は存在しない。(amn't = ×)

<例 1> Is he a teacher?

はい → Yes, he is.

いいえ → No, he isn't. / No, he's not. / No, he is not.

<例 2> Is this your desk?

はい → Yes, it is. (Yes, this is. = ×)

いいえ → No, it isn't. / No, it's not. / No, it is not.

(No, this isn't. / No, this is not = ×)

Lesson 5-4: 前置詞② (on / for / by / around)

1. on = ~ (の上) に / (壁) に (貼ってある) / ~ (曜日・日・週末など) に・は
<何かに接している、または乗っているイメージ>



<例> My bag is on the desk.

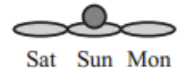
(私のカバンは机の上にあります)

Your schedule is ¹also on the wall.

(あなたのスケジュールも壁にあります)

I am busy on ²Sundays.

(私は、毎週日曜日は忙しいです)



1. also (~も) という単語も、sometimes / always のように be 動詞の文では be 動詞の後に足され、一般動詞の文では一般動詞の前に足される。
2. 曜日を複数形にすると「毎週○○曜日」「(一般的に) ○○曜日」となる (every ○○ とほぼ同じ意味)。

【ポイント！】

1. 2つの日 (月曜日と水曜日など) をいう場合は「on ○○ and △△」となる

<例> I am busy on Mondays and Wednesdays. (私は月曜日と水曜日は忙しいです)

(I am busy on Mondays and on Wednesdays. = ×)

2. weekend (週末) にも on が使われ、weekends とすると「毎週末」「一般的に週末に」となる

<例> I play soccer on weekends. (私は毎週末サッカーをします)

2. for = ~へ (宛て) / (朝食などの) ~のため / ~に対して <何かに向かっているイメージ>

<例>

This letter is for you.

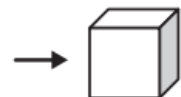
(この手紙はあなた宛です)

It is the symbol for "library."

(それは「図書館」の (ための) 記号です)

I ²usually ³have yogurt for breakfast.

(私は、たいてい朝食にヨーグルトを食べます)



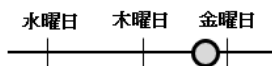
1. 「○○の記号」という場合、the symbol と、the がつく。その理由は図書館の記号は1つしかないから（イメージとしては「日本の地図には、図書館の記号があり、それが図書館の記号」）。また、“ ” 中の単語には a / an や所有格はつかず、文の最後の場合がピリオドの場合は “ ” 中、クエスチョンマーク (?) の場合は、“ ” の外になるので注意。
2. usually は「たいてい / いつもは」という意味の副詞。always / sometimes のように使われる。
3. 「(朝食などを) 食べる」という場合、have が使われることが多い（「朝食を取る」といったイメージ）。

3. by = ~のそばに / ~までに (期限) / ~によって (手段) <何かのそばにあるイメージ>

<例> That library is by our office. (その図書館は私たちのオフィスのそばにあります)

I want it by Friday. (私はそれが金曜日までにほしいです)

We go to school *by bus. (私たちはバスで学校に行きます)



* 「~によって (手段)」として使う場合、**名詞の前に a/an や所有格は** **つけない**。by email (メールで) のように、乗り物以外も同様。

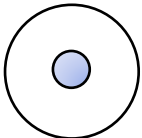
<例> We go to school by a bus. = × We go to school by our bus. = ×

4. around = ~の周りに / ~あたりに / ~ごろ (に) <周りを囲んでいるイメージ>

<例> I always go to work around 7:00. (私は、いつも 7:00 ごろに仕事に行きます)

I live around *there. (私は、そのあたりに住んでいます)

*here / there は基本的に副詞だが、around は足すことができる。



Lesson 5-5: 疑問詞① (Who / What / How)

ここでは「誰?」という意味の Who、「何?」という意味の What、そして「どう?」「どのように?」という意味の How について学んでいきます。これらは疑問詞と呼ばれ、大きな特徴は、

文頭で使われる

ということです。そして、これらの疑問詞の後には疑問文の形 (be 動詞の疑問文、一般動詞の疑問文、can の疑問文) が入ります。

【疑問詞を使った疑問文：基本の形】

疑問詞 + 疑問文?

- <例> Who is he? (彼は誰ですか)
How is your soccer team? (あなたのサッカーチーム (の調子) は、どうですか)
What can you teach? (あなたは何を教えられるのですか)
What is *(What's) that? (あれは、何ですか)

*What is ~? は、What's ~? と短縮せることも可能。

【疑問詞を使った疑問文の作り方】

- ステップ 1: 疑問詞の部分 (誰・何など) に同じ種類の「**適当な単語**」を入れて疑問文を作る。
ステップ 2: 入れた「**適当な単語**」を **疑問詞に戻す**。
ステップ 3: 疑問詞を **文の先頭に持ってくる**。

<例：彼は誰ですか>

ステップ 1: 疑問詞の部分 (誰) に同じ種類の「**適当な単語**」を入れて疑問文を作る。

「誰」の部分で「ジョン」に変える

→ 「彼はジョンですか」

Is he John?

ステップ 2: 入れた「**適当な単語**」を疑問詞 (**who**) に戻す。

John → who に戻す。

Is he who?

ステップ 3: **Who** を文の先頭に持ってくる。

Who is he?